

平成 29 年度卒業研究発表会要旨集の巻頭にあたって

町野 弘明 (筑波大学 生物学類 4 年)

とうとう、卒業研究発表まであとわずかという時期になりました。ふと今までを思い返すと、あの時ああすれば・・・なんて後悔もまま残っていますが、この筑波で過ごした大学生活は、勉学でも、そのほかの様々な活動においても、今までで最も規模が大きく、最も刺激的で、そして最も早く過ぎ去った 4 年間となりました。特にこの生物学類においては、様々な発見や体験にあふれた日常を過ごすことができたと感じています。終わらない実験や観察に途方に暮れた日、泣きそうになりながらレポートの提出に明け暮れた日、友達同士で集まってテストの作戦を練った日など、かなり苦労した時期もありました。そんな中で、雄大な自然に心奪われたり、生物の多様性に驚かされたり、苦労して取ったデータをうまく発表できたりといったような、感動する瞬間も多々ありました。ほかの 4 年生も、多かれ少なかれそういった経験には覚えがあるのではと思います。

そんな大学生活の集大成の一つが、この卒業研究発表会です。今まで自分が見聞きし、体験した中で興味深く感じた物事をさらに掘り下げていく。その作業が卒業研究なのだとは感じています。しかし、実験し、データを集めて解析し、様々なアドバイスをいただきながら形にしていくという流れの中で、多くの卒業研究生が、データがうまく集まらない、実験が思うように進まないなどの辛い経験をしたと思います。またその一方で、きれいなデータが取れたり、発表がうまくできたりといったこともあったと思います。そんなこの一年間の喜怒哀楽が、卒業研究には詰まっています。その思いも含めて、自分たちが何に興味を持ち、どんなことが分かったのかを、卒業研究生一同、発表を聞いてくださる方々に精一杯お伝えしたいと思います。ぜひ、多くの発表を聞いていただいて、そのことを感じていただければと思います。

また、この卒業研究発表会を開催し、運営を行ってくれた 2、3 年生には、本当に感謝しています。生物学演習が大詰めタイミングで様々な調整やミーティングの運営など、なかなか大変だったと思います。卒業研究発表当日は忙しいかもしれませんが、来年の参考になる部分をできるだけ吸収してほしいなと思います。そのほかの生物学類生も、多くの発表を聞いて、自分の興味範囲を広げてほしいと思います。そして発表で気になったことは、質疑応答や発表後にどんどん質問してください。発表する僕ら側からしても、後輩から質問が来るととてもうれしいです！

最後になりましたが、ご指導いただいた先生方、研究にご協力してくださった方々には、卒業研究生全員、誠に感謝しております。本当にありがとうございました。皆様のご指導やご協力のおかげで、この 1 年間大きく成長できたと感じています。最後にふさわしい、悔いのない発表をいたしますので、温かい目で見守っていただければと思います。

つくばという土地は、生物学類にとってとても有意義な場所であると私は考えています。もちろん、生物学類でも生物が好きではない人がいると思いますが、それでもここまで自然を身近に感じられる大学もそうそうないのではないかなと思います。この筑波大学で勉強や研究、様々な活動ができたことを感謝しながら、活発な、そして聞いている人、発表する人、運営する人が楽しめる研究発表を行いたいと思います。

Communicated by Seiichi Furukawa, Received December 28, 2017.